

論文審査の結果の要旨

氏名 サルツバーク・クリストファー

本論文は、インターネットのオンラインで多言語環境の解析を、ネット上の翻訳コミュニティに関するケーススタディから初めて行ったものである。特にこのケーススタディの実体を、その統計的性質とインタビューとサーベイを通じて詳細に報告するものである。

まず第一章では、本論文のケーススタディの位置づけを、インターネットという場における「コミュニティ翻訳」で定義し、コミュニティメディアとの関係を説明している。その中で、とくに非営利メディアプロジェクトであるグローバル・ボイス (Global Voices) と、その翻訳コミュニティであるプロジェクト・リングア (Project Lingua) をケーススタディとして取り上げ、そして本論文の構造を概説する。

第二章では、背景として関連する参加型メディアと、多言語インターネットの状況について紹介している。前半は、国際ニュースの構造的および経済的な変化に関して、ザカマン (Zuckerman) 氏のグローバル・メディア・アテンション (Global Media Attention) について、またオストガード (Ostgaard) 氏のニュースフローについての研究などを紹介している。

このレビューに基づいて、言語的、文化的、国際的な境界を越える、「ブリッジブログ (bridgeblog)」というブログを紹介し、そこでの翻訳活動という観点から、本研究のケーススタディであるグローバルボイスという団体を紹介する。章の後半はメディア環境として非常に特徴的な「多言語インターネット」についての研究を概説している。

第三章ではまず始めに、ケーススタディ研究という方法論そのものを説明し、「バーチャルコミュニティ」(仮想共同体) という概念に基づいて「翻訳コミュニティ」を定義し、いくつかの翻訳コミュニティの例を挙げている。さらに、プロジェクト・リングアの歴史と組織構造を説明し、用いる研究資料の詳細を説明している。

第四章で具体的なケーススタディの考察と分析が行われている。まず、インタビューの結果を参考にして、プロジェクト・リングアの翻訳者のバックグラウンドと参加動機を解説する。さらに、個人のブログからグローバル・ボイスへ、そしてグローバル・ボイスからプロジェクト・リングアへのコンテンツの動きを説明し、その文脈における翻訳記事の選択過程と、プロジェクト内部のコミュニケーションを分析している。翻訳者の人数や翻訳記事の地理的分布についても定量的分析を行っている。

第五章では、第四章の結果をもとに、プロジェクト・リングアとグローバル・ボイスを、「翻訳学 (Translation Studies)」、「ジャーナリズム学」および「情報社会研究」という3つの枠組みの中で位置付ける。

第六章では、まず本研究の結果をまとめ、翻訳の役割をより幅広く組み入れるようグローバル・ボイスに具体的な提言をする。とくに、翻訳のための技術的提言だけではなく、いかに翻訳のコミュニティの個人と団体が機能しているかの重要性について提言している。

以上のように論文提出者の研究は、オンライン多言語翻訳社会について、初めて定性的および定量的に調べた研究として高く評価できる。この研究論文は、今後のネットワーク社会における言語のあり方に関する研究として、きわめて重要な寄与をなすものと考えられる。したがって、本審査会は博士(学術)の学位を与えるのにふさわしいものと認定する。